

第3回
(仮称)干潟地域小学校
学校再編代表者会議
議事録

日 時：令和6年3月18日（月）
場 所：古城小学校 2階ランチルーム

第3回 (仮称)干潟地域小学校 学校再編代表者会議

日 時 令和6年3月18日 (月) 午後6時30分

場 所 古城小学校 2階ランチルーム

議事日程

- 1 学校再編における市のビジョン
- 2 開 会
- 3 前回議事について
 - ①学校再編だより (第3号) ・第2回会議議事録
 - ②出生数を踏まえた児童数の推計
- 4 議 題
 - (1) 議案第2号 統合校の位置について (諮問)
 - (2) 議案第3号 統合校の開校時期について (諮問)
- 5 その他
- 6 閉 会

出席委員 (24名)

保護者代表

中和小PTA	金親 大	中和小PTA	木内 貴之
中和小PTA	越川 聡子	萬歳小PTA	飛田 雄司
萬歳小PTA	石井 幸恵	萬歳小PTA	細谷 素子
古城小PTA	林 禎和	古城小PTA	實川 博之
古城小PTA	大木いずみ		

地域住民代表

中2区区長	菅谷 文行	萬歳3区区長	椎名 清治
西2・9区区長	米本 一章		

学校教育関係者

中和小校長	朝倉真由美	萬歳小校長	坂中 正人
-------	-------	-------	-------

古城小校長 梅津 清治

福祉関係者・青少年育成関係者

青少年相談員 小久保和宏

民生委員 大湊 一文

青少年相談員 秋葉 教子

その他教育委員会が必要と認める者

干潟町中央
保育園保護者 高木奈保子

中和小学校
評議員 玉井 正博

まんざい保育所
保護者 石井 真也

まんざい保育所
保護者 花香 真菜

古城保育所
保護者 小角 早苗

古城小学校
運営協議会委員 金杉 光信

欠席委員（0名）

事務局職員出席者

市 長 米本弥一郎

教育総務課長 向後 稔

学校教育指導室
室長 臼倉 浩

教育総務課長
教副課長 江ヶ寄基道

教育総務課長
教副課長 八馬 裕樹

教副課長
施設班長 石毛 厚史

学校再編室
室幹 八木 幸生

校再編室
学主 林 義樹

学校再編室
学主 椎名 倫史

傍聴者 5名

1 学校再編における市のビジョン

○事務局 皆さんこんばんは。本日は大変お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。
ございます。

初めに次第の変更を申し上げます。お配りしました次第の2、学校再編における市のビジョンですけれども、市長所用のため初めに行わせていただきまして、その後代表者会議という流れで行いたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

それでは初めに、学校再編における市のビジョンということで米本市長お願いいたします。

○市長 皆様、こんばんは。大変ご苦勞様でございます。米本でございます。

委員の皆様には、日頃より本市教育行政へのご理解とご協力に感謝申し上げます。また、(仮称)干潟地域小学校の統合につきまして、地域検討会議に引き続き、ご参加いただき誠にありがとうございます。

本日は、私から「旭市の教育ビジョン」ということで、お話させていただきたいと思います。平成27年4月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正に伴い、地方公共団体の長は地域の実情に応じて、教育、学術、文化の振興に関する総合的な施策について、総合教育会議で協議し、その目標や施策の根本となる方針を定めた「教育に関する大綱」を策定することが義務付けられました。

本市においても、平成28年4月に「旭市の教育に関する大綱」を策定し、取り組んできたところで、本年は令和2年度から令和6年度までの5ヶ年を大綱の期間とする「旭市の教育に関する大綱」第2期の4年目にあたり、～旭に学び、育ち、旭を誇りに思うひとづくり～を基本理念に、5つの重点目標を掲げ、各種施策に取り組んでいるところでございます。

少子化により人口減少が進む中で、教育こそがまちづくりの原点であるとの考えのもと、旭で生まれた子どもたちが、ふるさとを愛し、夢や目標の実現のために努力し、学力や体力、また豊かな人間性を身につけ、本市の将来を担ってくれることを期待するものでございます。そのためには、安全・安心な学校施設の整備、公平な教育環境や個に応じた指導の充実、さらに旭市の歴史・文化に触れる機会の提供など、より良い教育環境を整えることが重要であると考えております。

人口減少・少子高齢化は国全体の大きな課題であり、本市も様々な施策に取り組んでいるところでございますが、依然として人口の減少が続いているほか、市内各地域における人口の偏りも見られ、児童生徒数も学校によって大きな差が生じています。

本市の学校施設は、1市3町合併時から旧市町の学校をそのまま引き継ぐ形で運営してき

ましたが、建設された多くの建物が今後更新時期を迎え、整備や改修が必要になると推計されておりますが、その反面、今後の税収の減少などを見据えると、厳しい財政状況を想定した市政運営が強く求められ、すべての学校施設を適正に管理し続けることは困難となることが想定されます。

このようなことから、市内の学校運営を見直し、子どもたちが公平、安全に教育を受けられる環境を整えることは、私にとって大きな使命であると考えております。

本市では、平成28年度に「旭市学校のあり方検討委員会」、令和元年度に「旭市学校再編計画策定委員会」を設置し、委員の皆様に関後のあり方を見据えた具体的な計画案を作成していただき、令和3年6月に本市において「旭市学校再編基本方針」を策定するに至りました。

学校再編という大きな命題につきましては、市民の代表者からの意見を踏まえ決定した、この基本方針を軸として学校の再編を進めていきたいと考えております。干潟地域と同様、ほかの地域につきましても、市民の皆様意見を伺いながら進めていきたいと考えております。

本日の会議では、子育て現役世代の委員の方に多くご参加いただいておりますが、まずは子育て現役世代の方がどのようなお考えを持たれているかを伺い、そして区長さんをはじめとした地域の皆様に、学校を支えていただき、この先も継続可能で地域に根付いた新しい学校を築いていくことが、私の目指す学校づくりでございます。

干潟地域に目を向けますと、この代表者会議で審議していただいている（仮称）干潟地域小学校は、学校の立地条件などを踏まえ、古城小学校へ統合する方針となっております。

萬歳地区や中和地区の子どもたちから見ると、遠くなってしまう不便な思いをさせてしまうこともありますが、先ほども申しましたとおり、小学校を統合することで子どもたちの教育環境を充実させていくことを第一に考え、また総合的な観点からも、利用できる学校を活用していきたいとの考えで古城小学校を選定しているところでございます。

干潟地域の子どもたちが安全・安心に通えるよう、スクールバスの導入や校舎などの改修工事を考えておりますので、ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

委員の皆様には、それぞれのお考えがあるのは当然でございますが、そういった点も考慮いただきながらご審議していただければと思います。

また、干潟地域は令和3年に国から過疎地域の指定を受けております。これに伴い市では「旭市過疎地域持続的発展計画」を策定し、国から支援をいただきながら過疎地域の持続的

な発展に向けて取り組んでいるところで、具体的には令和6年度末の開通を目指している南堀之内バイパスなどの道路整備や、学校再編に伴う校舎の改築、新築などが取り入れられています。

閉校となった学校をどのように活用していくかにつきましても、市民の皆様の意見にしっかりと耳を傾けながら、干潟地域が持続的に発展していくような跡地活用を検討していきたいと考えておりますので、今後ともご協力をお願い申し上げます。

次に、（仮称）北統合中学校についてお話させていただきます。小学校と同様に、干潟中学校の生徒数は市内5つの中学校の中で一番少なく、それにより部活動などの種類も少ない状況でございます。また、中学校生活は大人になる準備段階としてとても重要な時期であります。自分のやりたいことを選択できる環境の中でより多くの人と交流し、自分自身を成長させてほしいという思いがございます。

今回、（仮称）北統合中学校を建設する目的は、そのような教育環境を提供したいという思いからこの基本方針となったところでございます。先日、保護者アンケートの結果が出まして、80%以上の保護者の方から（仮称）北統合中学校の建設について「賛成」または「どちらかと言えば賛成」というご回答をいただきました。

私といたしましても、魅力ある中学校を早めに整備したいという思いがあり、（仮称）北統合中学校につきましても早急に地域説明会や地域検討会議を設置したいと考えております。

なお、基本方針の中では将来的には小中一貫校という方針も示しております。（仮称）北統合中学校の建設に向け、土地の選定を行う際には、土地を広げられるかなどの観点も踏まえて検討したいと思いますが、現時点ですぐに小中一貫校を設置することは考えておりません。干潟地域に小学校を残して地域の文化を継承しながら小学校を支えていただきたいとの思いもあるからでございます。

（仮称）北統合中学校の建設につきましては、地域の垣根を超えた大きなプロジェクトとなりますが、地域検討会議や代表者会議におきまして、市民の皆様の意見を伺いながら進めていきたいと考えております。

私は学校という場がとても好きで、これまでにPTAの役員やボランティア活動もさせていただきました。その理由は、私が小・中学生の時に大変すばらしい先生方や友人に巡り合うことができたからでございます。卒業してからも自分自身を形作っているのは、そういった学校や社会での教育のお陰であると感謝しております。

このような経験も踏まえて、この先も旭市の子ども達が旭で学び、育って良かったと思え

るような学校づくり、地域づくりをしまいいたいと考えております。

少し長くなりましたが、旭市の教育ビジョンということでお話をさせていただきました。ありがとうございます。

○事務局　ただ今、市長より説明をさせていただきました。

この件につきまして、質問などがありましたらお伺いしたいと思いますが、時間の都合と質問される方に偏りが出ないように、それぞれの小学校から1名ずつを目安とさせていただきますのでご了承ください。

それでは、ご質問等がある方は挙手をお願いします。

○委員　米本市長、この度はお忙しいところ私たちの子どもたちのために干潟地域代表者会議にお越しいただき、誠にありがとうございます。

これまで教育委員会教育総務課、特に学校再編室の職員の皆様から詳しい説明がありました。特に無理を言ってお願いした現地見学会の素早い対応、施設班職員の皆様を中心としてすでに土砂災害の懸念に対する対策工事が着々と進んでいること、とてもありがたいことだと思います。

そして今日、干潟地域統合小学校、いよいよ最終段階まで来ました。これで念願の複式学級が回避され、安心して子どもたちを小学校に通わせることができます。これは関わる全ての職員の皆様の努力の結晶であり、大きな成果ではないかと思います。ありがとうございます。

時には白熱した議論となり、大変失礼なことを申し上げることもありました。その点は平にお許してください。こうしてできる干潟地域統合小学校、これからますます地域で盛り上げていかねばなりません。今後とも職員の皆様ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、ここからが本題です。義務教育は9年間です。小学校、中学校は車の車輪のようなものです。どちらが欠けてもうまく回っていきません。ご存知の通り干潟地域は少子化の速度が早く、一刻も早く小学校を統合しなければならない状態で、その問題は職員の皆様のおかげをもちまして解消しつつあります。

ところが安心したのも束の間、干潟地域統合小学校の子どもたちは卒業後、すぐ非常に生徒数が少なくなって、部活動や授業など学校運営が難しくなっていくという、中学校という問題に直面します。そうした意味で、干潟統合小学校の子どもたちは、卒業後の将来に大きな不安を抱えています。待ったなしの状態なのです。干潟地域統合小学校の子どもたちは将来的には（仮称）北統合中学校に通うことが想定されます。また、この学校は新しい教育の

形を模索するものとして小中一貫となることが検討されていると学校再編計画書にもあります。その辺を含めまして、米本市長様に干潟地域、旭市北地域の9年間の義務教育構想をお伺いできれば幸いです。いかがでしょうか。

○市長 ありがとうございます。私から、干潟地域と旭の琴田・共和地区の義務教育構想というご質問にお答え申し上げます。

先ほどの挨拶と重なる部分もございますが、子どもたちが公平、安全に教育を受けられる環境を整えることは、私にとって大きな使命であると考えております。そのため、魅力ある中学校を早めに整備したいという思いから、（仮称）北統合中学校につきましても早急に地域説明会や地域検討会議の設置を進めていきたいと思っております。

現時点ですぐの小中一貫校は考えておりませんが、義務教育の期間は子どもたちにとっても非常に大切な時期だと思っておりますので、（仮称）北統合中学校を拠点として、この（仮称）干潟地域小学校と琴田・共和統合小学校の3校がそれぞれ連携して義務教育の充実を図ってほしいと考えております。

小学校も中学校も地域に根づく新たな学校として、今後準備委員会等で一体感を醸成する取り組みを検討していきます。保護者の皆様、そして地域の皆様にもご協力をいただき、小中学校を支えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○委員 私は旭市の最大の魅力は食の豊かさだと思っています。本日まで参加の方にも農業をされている方がいらっしゃると思うんですが、そこで質問ではなく一点要望をさせていただきたいです。

今お話の中にもありましたが、新しい校舎の建設などの際には、ぜひ給食施設を学校内に造っていただくことをご検討いただければと思います。現在各学校でも様々な食育が行われているところではありますが、より子どもたちが旭市の食の豊かさを感じたり、また地産地消の推進、そしてそういったことを通して自分たちの故郷を誇りに思う、こういったきっかけになると思いますので、ぜひご検討いただければと思います。

○市長 旭市の学校給食についてご提言をいただきました。学校給食は現在地元の食材を活用しながら、安全安心で美味しく食べやすい工夫をしながら提供しておりまして、現在は2つの給食センターで調理したものを各学校に配達している状況でございます。

先日、防災給食として、全ての小中学校に温めた非常食を提供し、子どもたちに防災意識を高めてもらう取り組みも行ったところでございます。

自校式や親子式ですと、出来立ての給食が提供できるほか、食中毒などのリスクを軽減で

きることや、災害時の調理場として活用できるメリットがあります。一方で設備や調理の分散による予算的なことも考慮する必要がありますので、それぞれを踏まえて、今後も美味しい給食を提供できるように検討していきたいと思います。

○会長 私の方から一点質問というかお聞きしたいことがあります。最近多くの災害が日本全国で発生をしております。近いところと言うと千葉の東方沖での地震も最近ではちょっと気になるところであります。学校づくりに関して、統合に向けては安全で安心な学校づくり、これは最優先かなというふうに思いますので、この辺りの市長のお考えをお聞かせいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○市長 先ほど来申し上げておりますように、安全で安心な学校づくりは一番大切なことだと考えています。統合が決定した際には、工事の優先順位をつけながら整備を進めていきたいと思いますが、やはり第一は安全で安心なことです。先ほど、こちらの東側の斜面も拝見しましたけれども、早速安全のための方策を取っていきたいと考えているところです。

また、学校は子どもたちの教育施設に限らず、地域の拠点として多くの役割を担っているほか、地域の方にも安全で安心な場所として利用していただける学校づくりを進めていきたいと考えています。

○事務局 ありがとうございました。

米本市長は所用のため、ここで退席させていただきます。

(市長退席)

2 開 会

○事務局 それでは、これより（仮称）干潟地域小学校学校再編代表者会議を開催させていただきます。

初めに資料の確認をさせていただきます。中和小学校の小久保委員より資料の配付依頼がありましたのでお配りしております。内容については議題の中で取り扱わせていただきます。また、教育長は本日所用のため欠席させていただいております。

また、本日の審議会は「旭市審議会等の会議の公開に関する要綱」第3条により公開するものとなっております。

傍聴人の皆様をお願いいたします。本日の会議は受付でお渡ししました傍聴要領を守っていただきますようお願いいたします。

なお、会議の進行を妨げることがあった場合には、退場していただくこともありますので、

ご注意くださいようお願いいたします。また、傍聴要領に記載のとおり、会場での写真撮影、録画、録音等を行わないようご注意ください。携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りになるかマナーモードに設定していただくようお願いいたします。

3 前回議事について

○事務局 それでは、次第の3 前回議事について、担当より①と②を併せてご説明させていただきます。

○事務局 (資料説明)

○事務局 ただいまの説明に対して、ご質問などがありますでしょうか。

(発言する人なし)

○事務局 それではよろしいでしょうか。

続きまして、4 議事に移ります。議事に関しては会長に進行をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

4 議 題

(1) 議案第2号 統合校の位置について（諮問）

○会長 それでは、議事に入らせていただきたいと思います。

教育委員会から諮問がありました、議案第2号統合校の位置について、本日の会議で審議することとしてよろしいでしょうか。

了承をいただいたと判断しまして、議案第2号について審議を進めます。最初に、事務局より説明をお願いします。

○事務局 (資料説明)

○会長 事務局の説明は終わりました。

質問、ご意見等ある方は発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

小久保委員から提出された資料につきましては、委員の皆さんそれぞれ読んでいただく形を取りたいと思います。これにつきましても、小久保委員何か意見などがあればよろしくをお願いします。

○委員 先ほど米本市長から力強い北中学校へ向けてのお話があったので、大部分の問題は解決しつつあるのかなというふうに思っておりますが、それでもなおちょっと移行期間としてそれなりの問題があるのかなというふうに思い、その一点、これどこに統合しても起こ

りうる問題点というところで、この干潟中学校の問題というところを一つ挙げさせていただきたいと思います。

この問題を考えるきっかけとなりましたのが、実は私の子どものクラスの子が4年生か5年生の頃に転校したいなっていうことを、自分の子どもが聞いてきたことに端を発します。そういったところで、その親御さんとお会いする機会があったので、ちょっと聞き取り調査をしましたところ、中学校がとても不安だということで、どうなんだろう、もっと人数の多い中学校を選ぶために別の小学校に行けないかなっていうのを考え始めてるんだっていうことをおっしゃられていました。そういったところから端を発して、これは結構まずい問題なのかなっていうふうに私の方で認識しまして、ちょっとこの資料を作らせていただきました。

この干潟中学校の問題としましては、この表を見ていただくとわかるんですけれども、この間の2回目の代表者会議で1年生から6年生までの聞かせていただいた人数を基に、干潟中学校がどういった人数推移をしていくのかなっていうところをまとめた表になっていきます。これを見ていくと、かっこ書きで書いてあるところは国の基準でやると2クラスに分かれるであろうというところで、大型クラス、準大型クラスみたいに書いてあるところっていうのはこれ1クラスになります。見ていただくと分かるんですけれども、令和8年頃から実は標準学級っていうのが、40人っていうのは今一応クラスの基準になってますので、5クラス、5クラス、4クラス、3クラス、3クラスでこのプラス1っていうのが今実績値として特別支援学級が1クラスあるっていうところで聞き取り調査させていただいたところで、1クラスそういうクラスがあるっていうことでプラス1としております。そういったところで本来であれば県の基準で、本当はその教科担当教員の配置数っていうところが決まるんですけれども、ちょっと千葉県基準について私の方で見つけることができませんでしたので、一応国の基準をもとに計算をしていった数になります。プラスアルファっていうのが加配っていうのが認められてることで、プラス若干名っていうところで、今だと15名だか17名だかの先生の数が現在配置されているというような状況になります。

そういったところで見えていきますと、令和8年あたりからこの配置される教科の先生方っていうのが段々と減っていきまして、だから8年、9年あたりからちょっと減ってくるかなっていうところで、10年、11年っていうところでいよいよ減少っていうのが確定的になる。令和10年、11年っていうと、ちょうど干潟地域統合小学校の卒業生が入ってくる頃となります。12年、13年っていうふうになると単クラスのスタートになってしまいますんで、いわゆる単学級化っていうようなことが確定的になってくるんで、教科を担当するのに配置される

基準っていうのがやっぱ減ってきますんで、これに配属される先生の数っていうのが減って
いってしまいます。

そうしたところで、いわゆる中学校では国語算数理科社会英語その他に今はひょっとする
と男女体育は一緒なのかもしれないんですけど、いわゆる私らの感覚で言うと男子体育、女
子体育、音楽科美術科家庭科技術科でまあ合計11教員っていうのが必要になるんですけど
も、これが段々と配置が難しくなっていくという懸念があります。

そういったところでさらにこの令和10年、11年あたり、令和9年に統合を想定した時の6
年生5年生のクラスですね、こういったところがちょっと大型のクラスっていうのが出てき
ます。小学校っていうのはその学級に熟練の先生達を配置すればいいんですけども、中
学校で専門教科制っていうのを取ってますんで、ありとあらゆる先生がこの40人を、ちょっ
と大型学級っていうところの準備をしないといけないような状況になりますと。

今度令和14年ぐらいの頃を見ていただくと、大体この中学校の数がまあ100人を切ってく
るということになると、これはそろそろいよいよ部活動の運営っていうのは正直厳しくなっ
てくるのかなっていうことが実は想定されています。実はこういったことを懸念して、せっ
かくこの統廃合を一生懸命やっているところで、他の小学校へ脱出する動きっていうのが、
こういった心配を基に始まってしまうと、結局ここで一生懸命議論してる意味っていうのが
なくなってしまいますと。まあ中和地区としてはこれ2022年からこの問題を非常に懸念して
いて、いわゆる先ほど出てきました小中一貫校っていうのを早期に実現した方がいいんじゃ
ないかっていう議論もあったぐらいです。

そういったところで一つ要望なんですけれども、先ほど北中学校っていうのは早期に実現
するというふうに市長さんの大変力強い決意を持っていてくれて、私どもとても安心して
いるところであるんですけども、やはりまだ検討委員会が発足してる状況になく、用地買収
や校舎の新設なんか、時間が伴うことが想定されますんで、とてもこの問題が始まる令和10
年に間に合うような状況ではないのかなというふうに私は思っております。

そういったところでちょっと要望なんですけれども、この移行期間、この中学校の統合へ
の移行期間っていうところで、この必要な教員の増員対策とか、あとこの40名限界のその大
型クラスですよ、こういったところを、いわゆる学校標準校の基準に捉われない特別なク
ラス編成、先ほども教室を見せていただきましたが、20名ぐらいで一クラス編成したり、現
状も干潟中学校二十数名で運営されてるんで、そういったような特別なクラス編成ができな
いかなっていうのをちょっとご要望させていただきたいと思っております。

あと部活動の制限っていうのが現実になる前に、できれば北中学校の成立が本当は要望されるかなと思います。あともう一つ不透明な部分があって、小学校で例えば統廃合をして、例えば中学校で統廃合っていうようなところになりますと、例えば令和12年、13年あたりなんかで統廃合すると結局5、6年生の時で統廃合して、その子達は結局受験の真っ只中に再度統廃合っていうようなことになる子達がひょっとすると出てくる可能性があります。だからこの統廃合の時期っていう所が重なるっていうようなことで、子どもたちの成長に影響がないように対応策をちょっと検討していただけないかっていうふうに市のほうに要望したいと思っているんですけども、市のほういかがでしょうか。

○事務局 うちのほうで気が付かないようなところ、いろいろ提言、要望をまとめていただきましてありがとうございます。お時間もありますので、この資料は皆さんで見えていただいて、今後の参考にしていただけたらと思います。

ご質問に対して、まず教職員の配置では、子ども達の統合する前の児童数等勘案して、十分な先生方の配置ということで、県のように要望していきたいと考えております。

それと、地域検討会議のほうでも少しご意見が出ました、子どものサポートだとかケアに対して、顔見知りの先生方を統合に際して配置していただくようなということも、重ねて県の方に要望していきたいというふうに考えております。

それと、いろいろ将来的な統合の時期というところの中で、また子どものケアというような件が出ました。その辺も十分踏まえて、地域検討会議や代表者会議の中で（仮称）北統合中学校の様々なご意見だとか、議論を重ねていきたいなというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○会長 それではほかの方、ご意見等いかがでしょうか。

せっかくの機会ですので何かご意見等、ご質問含め何かございましたら発言のほうよろしくお願いいたします。

○委員 統合校の位置についてということで、今ご協議いただいているところではあるんですけども、先ほど市長さんの意見とか市の方針とかもお聞かせいただきました。北中学校の話もね、これから進めていくってことであったんですけども、今回結局北中学校ができる前に、中和小と萬歳小の複式学級を改善するっていうのと、あと先ほど学校の地図にもあったように中和小と萬歳小は非常に危険な位置づけに今あるんだよってということなので、とにかく今できる最善の方法ということで、市の方からも提案がある古城小学校を使って、それで皆がうまく運営できるような学校にしていくってことで、それぞれの小学校でも協

議してきていると思うので、皆さんが良ければこの古城小学校を使うっていう位置づけのもので採決をするのがいいのかなと思うんですけど。ただ採決はこの間も聞いたら1回でっていうことだったんで、やはりこの間と同じように事前にそれぞれの意見を聞きながら今日採決をやったらいいかどうかを決めた上でやっていただければと思うんですけども、どうでしょうか。

○会長　ただいま意見がございました。まずは皆様の意見があればご発言お願いしたいのと、あと採決につきましてもですね、今日どうするか含めて何かご意見があればお願いをしたいと思います。

○委員　今のままだと私はこの場所には反対したい。というのは、たまたま昨日地域で総会があって聞いたんですけど、まだ古城小に行くっていうのすら知らない人もいたっていう、地区の半分ぐらいの人が集まって聞いたんですけども。今こういう状況だっていう説明をしてやったら、ほとんどの人が反対を示したと、地区の人がね。

そういうのもあって、今後統合中学ができる時に、市として小中一緒にするとかね、まあそれも言っていましたけど。まだそれ一緒にやるとは市長さんも言ってなかったし。それを見据えた上で一時的に小学校も統合するという前提であれば、緊急避難的に古城小に統合する、それで中学校の統合に合わせて小学校も小中一貫にするという前提があるならまだあれなんですけども、それが見えない中で、やはり萬歳地区としてはやっぱ古城小ってなかなか縁がないんですよね。ほとんど来たこともない人も多いし。そういった中で子どもたちを地域で育てるってよく言われますけども、そういうイメージが湧かないっていうかですね。

ですので、その将来のビジョンというか、こうなるんだよっていう姿を示してもらえれば。少なくとも2050年ぐらいになったら、もうあと20年もしたらあれですよ、また統合っていう話には必ずなってくるわけで、その将来的なこうしたっていうのを示していただいた上で、それまでの間をこの古城小で緊急避難的にやっていくという話であれば、まだあれなんですけど。やはり統合小は中和地区にあるのが一番いいと思うんですよ。中和地区の方はどうですかね。私は思うんですけど、いかがでしょうか。

○会長　ありがとうございます。ほかの地区の方も含め、いかがでしょうか。

○委員　私がちょっと答えるのはどうかっていう部分もあるんですけども、中和地区としてはPTA、あと青少年相談員の中でかなり施設に関しての議論っていうのはあって、それこそ現中和小学校の山の裏を一体いくらで削れるのか、今地権者が誰なのかっていうところを調べたりしました。そういったところで例えば中和小学校の裏の裏山の地権者は私だった

りもするんですけれども、とても私は利権が絡んでるところでそれをちょっと推すってことはできなかったんですけども。やはりちょっと山を削ったりして、中和小学校を活かすことは難しい。

あと施設説明会の時に施設班の方が言っておられたんですけども、富浦小学校の例として、どうしても最初にこの話が来た時は中和小学校案っていうのを何とか推し進められないかっていうような依頼もあって、真剣に検討したんですけども、やはり教室数が少ないっていうデメリットがあって、富浦小学校なんかは非常に教室数が多くて特別支援学級をたくさん用意することができて、そういった教育的なメリットっていうのがなかなかこの中和小学校の校舎では実現が難しいのかなっていうような結論に至りました。萬歳小学校においてもその点は同じなのかなというふうに私も思いました。

そういったところで今度中学校っていうところを真剣に議論できないかっていうところで真剣に議論したんですけども、確かに管理棟だけ使って本当に小クラスになった時に管理棟だけは使って何とかできないかっていうような案もあったんですけども、やはりどうしても教室数が少ないっていうふうになると、そういった特別支援学級とかそういったところでも、やっぱりそのデメリットっていうのが非常に施設の大きいかなというふうに思っています。だからそういったところでやはり中和地区の施設面というところを現実的に考えると、なかなか中和小にしろ干潟中にしろ現実的には非常に難しいかなっていうふうに、私どもそういう結論に至ったところです。

そういったところで結局中和地区の中では、そうであれば小中一貫校っていう所を前倒して推し進めていけないかっていう意見が大多数で、そういったところで、ひょっとするとこの代表者会議の初回で我々非常に厳しい態度を取ったっていうところが、そういったところをまだなんとかできないかっていうような部分であったんですけども、それには他地区の合意形成をしていかないといけないというところで、非常に難しい問題があるかなっていうふうに私ども認識しました。

そういったところで現状地域としては本当に耐え難きを耐え、忍び難きを忍ぶというような、そういった思いで子どもたちの複式学級を回避して、何とかまともな教育を維持するというところで、古城小しかないのではないかなというふうなPTA執行部ではそういうような結論に至っております。

○会長 その他ご意見等いかがでしょうか。

○委員 私の周りは今合併の話をする、必ず私たちの周りのママさん達はいつ合併するの、

どこからバスが出るの、どうやって何時に出て古城小に行くのかなって、みんな言います。みんなもうママさん達は位置とか、そういうのを飛び越えて早く統合して、大勢の子どもたちと一緒に子どもたちを遊ばせたいっていうのが一番の目的だと思います。それをする事によって子どもたちの社会性を高めてあげたいっていうのがママさん達の気持ちだと思います。なので、ママさん達の話の中ではもうバスとか、どの位置から出るのかなっていうのを悩んでの方が結構多いので、ママさん達の中ではそういうふうになってると思います。

それで私一個人なんですけど、近所のおじいちゃんおばあちゃんとかは大体統合のことは知ってます。うちのひいおばあちゃん、一番上のおばあちゃんも統合のことは知ってます。なぜなら回覧板で必ずこれが来てるからです。上の年配の人は必ず回覧板に目を通してることが多いので、うちのひいおばあちゃんもいつ統合するのっていう話をしています。子どもたちが少ないのは子どもたちがかわいそうっていうのが、うちの近くにいるおばあちゃん達の間感です。もちろんうちの祖父に限ってですけど、うちの祖父も早く統合はした方がいいと言ってます。

だから全員が全員じゃないとは思いますが、多かれ少なかれ統合のことを知っている年配の方はいらっしゃいます。なので、私は早く進めた方がいいんじゃないかなって、みんなの願いは、ママさん達や近所の方、私の願いは統合して早くある程度的人数の中で子どもたちを育てていきたいというのが希望だと思います。

○委員 一点言い忘れたんですけど、私の資料の中でもあるんですけども、こういった中でやはり萬歳地区の負担っていうのは非常に大きなものだと思うんですね。そういったところで現実的な負担軽減策っていうのを取っていかないといけないのかなというふうに中和地区として思ってます。

それが一つとしては、学童を今の三地区での維持っていうようなことがもしできないかっていう、市役所の方でもちょっとどうなのか分からないんですけども、その辺ちょっと市役所さんにも伺いたいところなんですけども。もちろん古城小のみんなと遊びたいよ、だから古城小で学童をつという選択もありなんですけども、毎日の送り迎えっていうのを古城小まで行くっていうのは非常に大変なことかなというふうに思いますし、また地域の人達が地域の子達だけで遊ぶっていうのも、人間関係づくりではとても重要なことだと思いますんで、そういったような具体的な負担軽減策っていうのを考えていくことがひょっとすると現実的なのかなというふうに思っております。

○委員 今萬歳小で子どもを通わせている親としては、全然負担には感じません。むしろ子

どもの意見を聞くと、早く統合してほしい、お友達をたくさん増やしたいっていう意見の方が多いと思いますし、そのお母さん達も早く統合をスピード感を持ってほしいっていう意見の方が圧倒的に多いと思います。

実際に通わせている親の意見、今現在通っている子どもの意見っていうのはやっぱり最優先されるべきじゃないかなというふうに思います。

一番遠い地域の子どもたち、ましてや私たち親が全然負担には感じておらず、むしろ早くバスに乗って通ってほしいという声が、ぜひ萬歳地区の別の年齢層の方にも届いて欲しいなという意見です。

なので、今回位置に関してもそうですけれども、もうなるべく早い統合を私はお願いしたいなと思います。

○委員 私たちがせっかく話してることが住民に伝わってないっていうことなので、回覧板だけじゃなくて広報とかにも出してもらったらいんじゃないかなと思うんですけども、市の方で検討していただければと思います。

○事務局 先ほど来ていただいている学校再編日より、干潟地域のほうには回覧というような形をさせていただいてます。またホームページの方にも同じような形で掲載させていただいております。ご意見がありました広報あさひの方にも時期を見てまとめてというような形で掲載をさせていただければなと思うんですけども、また内部の方で少し議論をさせていただければと思いますのでよろしくお願いします。過去にも広報あさひには、再編の方いくつか掲載しておりますので、また今後も広報あさひの活用を検討していきたいと考えております。

○委員 お母さん方のそういう思いも十分理解した上でなんですけども、もう候補地がこの古城小が現在のところ一番ベターだと、ベストなのかわかんないですけども、そうしたときに先ほども言ったように、もうあと20年もしたらまた同じ状況になるといった中で、統合中学校と小学校の具体的な話が全く出てないんで、またその時になってまた議論したらまた時間がかかっちゃうっていう。もう旭市は他の市町村から見たら遅いくらいじゃないかなと思うんですけど。それであと20年後、今度どうすんのっていうのがある。もう具体的にしてもいいんじゃないかなと。それまでの間ここで、古城小でやるということであればまだあれなんですけど、その先を示して欲しいっていうのは私の思いです。

○会長 今ご意見がありました。時間もあまり多くはないんですけども、このメンバーで半年間進めてきました。各地域からの結論も一旦は出た中で集まっています。実際このメンバー

で議論するのは今日が最後かなとは思っております。また4月に入ってしまうと各推薦いただいている団体のメンバーのところも一部変わってくるかなと思います。採決も含めてどうするか。ちょっと全員っていうわけにいかないと、時間もあんまりないんですけども、いろんな意見があると思います。まだ発言されてない方とか実際どうでしょうか。採決も含めてご意見等あれば、なるべくいろんな方のご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員　今の話に回答していないと思うんですけど。返してほしいです。要するに北中を建てるじゃないですか。その用地買収を小学校もできるのかは私は知識がないのでわかりませんが、できるのかどうか。要するにそういうことを聞きたかったんですよね。それでもう次の準備もっていうところを答えてほしいです。

○事務局　皆さん中学校のことご心配されている気持ちはよくわかります。この場合は小学校の代表者会議ですので、小学校はどうしようかということが一番なんですけど、ただその先の中学のこともある程度想定しないとならないという気持ちは十分わかります。ただ、中学校につきましては、この北中学校については、またそれぞれの干潟中学校と二中の保護者の方が、またこの小学校と同じように地域検討会議を立ち上げて、代表者会議で決めていただくものですので、中学校についてここで、事務局の方でこうしますってことは申し上げられないというところがございます。中学校につきましては、先ほど市長も申し上げましたように、北統合中学校について、早期に進めたいという考えでありますので、その辺はご理解いただきたいと思います。

仮に北統合中学校の場所が決まって用地買収をするという場合には、その新設した中学校については将来的に小中一貫校を見据えて土地が拡張できるような場所とか、そういったことを考えて買収するということは当然考えなければならないと思ってます。ただ今時点で小中一貫校を必ずするよということは事務局の方でそれを確約できるものではありませんので、皆さんのご意見を聞きながら進めていくものでありますので、ご理解いただきたいと思います。

○委員　それでは答えになってないと思うんですけど。

要はこの小学校どうするかという中で、どうしたって中学校が出てくるわけですよ。その先をどうしていくのかっていうビジョンを示してほしいって私は言ってるだけなんです。だから小中一貫校を目指すって言ってくれば、確約できないのかわかんないですけども、将来像をなんか示してもらえれば。あとこの古城小で何年やってくるのか、その辺が何とも、そ

れがいつになるかわかんないんであれば、干潟小を新設したっていいじゃないですか。干潟小学校シンボルなんですから、ここに統合小を作って終わりっていうことだとなかなか、はい分かりましたとは言えないんですけども、なんかおかしいですかね。

○委員 私ども中和地区もその思いで真剣に中和小学校、干潟中学校これを何とか活用できないかっていうふうに本当にありとあらゆることを検討して、それこそ地権者は誰なのか、ここは今どうなってるんだっていうようなこと、実際に見に行ったりっていうこともしたんです。けれども、そういったところでやはりこの統合の即時性っていうところ、どうしてもこの複式学級っていうところが一つ大きなタイムリミットっていうところで、それをなんとか回避してあげなくちゃいけないっていうところが、非常にその貧すれば鈍するじゃないんですけれども非常に難しい決断であった。本当であれば干潟地域の中心部にそのシンボルとなる小学校があればいいなというふうに思っただけなんですけれども、当然用地の問題、実際これから用地買収をして建設するまでの時間を考えますと、どうしても複式学級とこの移行期間等をまた検討しなくちゃいけないというところで、大変難しくて、それこそ先ほど言いましたけれども、耐え難きを耐え、忍び難きを忍ぶというような思いなのかなというところだと思います。

○事務局 皆さんの気持ちは十分よく分かっております。

委員おっしゃるように複式学級を早期に解消するという目的で古城小というのも、この学校再編基本方針に載っているものであります。これについては事務局でどうのこうのというよりは、地域の皆さんで決めていただく、そのためのこの代表者会議ですので、その辺はご理解いただきたいと思います。

○会長 ほかの方いかがでしょうか。

○委員 お話を伺っていて、まず、今低年齢の子どもを育てる立場としては早急に統合に進みたい、これに尽きます。あといろいろとデータを見てみると、やっぱりゆくゆくはまたもう1回、その北地域っていうところで考えなければいけない時期は絶対に近い将来来るんだと思います。市長のお話を伺っていても、その北地域っていうところがゆくゆくは小中一貫校っていうところも見据えて用地買収ってお話もあったわけだし、ただそれが今の段階で確約できないってのは重々分かっています。

ただこの代表者会議の意見として、それができるできないっていうのは置いておいて、ゆくゆくは小中一貫校を作るっていうことをやってほしいというのが私たちの意見としてあるんだよっていうことは記録として残していただきたいなと思っています。その意見が次の

中学校の代表者会議で出るかどうか分からないですけど、今のこの会議の中でももちろんその干潟地域の小学校の統合の話もありつつ、先を見据えたときにそういう意見があるんだよっていうことは、こういうふうに学校再編だよりや議事録として残っていくと思うので、きちんと書面に残していただければ、それは私たちの一つの意思表示になるのではないかなと思っています。

○委員　今言ったように、この会議の意思として、そういうのも検討してほしいっていうのを、きっちり議事録に残していただくということで、他の皆さんもご了解いただけますか。ちょっと私もね、いろいろ周りから言われて来てるんでね、黙ってはられない思いもあって言ってるんで。その辺、事務局よろしくお願いします

○委員　先ほどの市長さんのビジョンをお聞きして、（仮称）北統合中学校は小中一貫校も視野に入ってるという話になってましたよね。ここで先ほど議事録残してほしいという話が出てきてて、いずれ、現在の古城小の校舎を使うにしても、先行きは分からないと。先ほどの2050年まではなんとか複式学級は免れるっていう、統計上はね、出てましたけれども。

小中が一貫校になるっていう意味は、私がちょっと考えるには、授業そのものは変わらないんですよね。児童生徒が学校の先生から授業を受けるのはそんな変わらないと思うんですね。ただ、学校行事とか、それから集団で行事やるとか、そういった面で小学校の児童さんの方から見れば、お姉ちゃんお兄ちゃんが、つまり7年生ね、統合中学校の7年、8年、9年生がいて、お姉ちゃんやお兄ちゃんがいると。そういう大きな所帯の中でいろんなことを学び合うという、そういうメリットはね、確かにあると思うんですよね。

ただ、地域検討会議の中ではそういう小中一貫校の話、要望とか、意見とか出てきましたけど、結論としてはその一貫を目指すっていうのはどこにもなかったような気がするんですよ。ただ、それが市長さんの話の中に出てきていて、今、そういう話がこの場で結構クロージアアップされてきたっていうか、出てきたというそういう印象を持つんですよ。

○委員　若干ちょっと認識が違う部分があるのかなと思うんですけれども、この小中一貫校っていうのは旭市の学校再編基本方針の北統合中学校のところに小中一貫校を検討しますというふうに書かれているものなので、唐突というわけでもなく、平成28年度でしたっけ、最初のあり方検討委員会から始まったその議論の中での答申にあることですので、そこから小中一貫校っていうのは議論されてきてるものだったというものですので、中和地区としてはそれが早いのか遅いのかっていうような議論だったっていう部分だったと思うんですけれども。

ただそういったところで、市の方としては十分に検討されていることなのではないかなと

いうふうに私自身認識します。また、市議会の方で地元代表議員さんの方がこの方針に変更ありますかというふうな質問されて、その方針に変更なしというふうな回答をもらってるというふうにお伺いしていますので、そういったところでこの小中一貫校っていうのは市の大きな方針の中にあるのかなというふうに私自身認識しています。

○委員　今皆さんの意見を聞いていてちょっと思ったんですけど、この統合をすることをこれで終わりみたいな感じに聞こえます。私の中ではこの統合は過程に過ぎないのであって、さっき市長さんがそういう一貫校を見据えてっていうお話をしたので、私の中ではこの統合は一貫校にしていくための過程として考えたら、もっと気が楽になるというか、考え方が変わるんじゃないのかなと思います。皆さんこの統合で一旦終了ではなくてこれを過程として考えて、これをきっかけに20年後もまた再編を考えなきゃいけないというのであれば、これを第一歩として考えていただいて、次のことも踏まえつつ皆さんお話を進めて考えていったらどうかなと思います。それを考えれば今ある現状の問題を一つずつでいいからできることからクリアして、結局一貫校にするためには地域の人の意見が一番であって、その人たちの意見が大きければ大きいほど市はそういう方に向いていくのかなと思います。市長がやるわけではなくて、そこに住んでいる人たちがどういう思いで住んでいるかをもっとその市に伝えて、自分たちでその小中一貫校に話を進めていけるように考えていったらいいんじゃないかなと思います。今回の統合っていうのはそのための第一歩の過程だと思ってやっていったらいいんじゃないかなと思いました。

○委員　保育園のママ達としては、やっぱりこれから複式学級をもうどうしてもなくしたいから早めについてという意見があり、とりあえず今現状で見て、統合をした方がいいんじゃないかなと思っています。やっぱりもう統合した後の話で、バス停はどこになるのかとか、そういう意見も保育園でも出ているので、干潟地域に学校を残すっていうのを市長も言っていたので、今現状で私は古城小でいいと思っております。

○委員　様々な意見があると思うんですが、今日ご提案いただいている議題の議案第2号統合校の位置については、これ以上先延ばしにしたとしても様々な意見の平行線で結局結論が出ないのかなというのがちょっと推測されるので、本日皆さんのご意見を、本日採決を取ってよいかの意見をまず聞いていただいた上で、賛成なのか賛成でないのかという採決をとってもよろしいのではないかなというふうに思います。

○会長　今ご意見がありました。まず今日採決をするかどうかですね。判断するのに今日採決するかどうかを皆さんにお聞きしてもよろしいでしょうか。

そうしましたら、今日採決することに対して賛成の方、その場で挙手をお願いしてもいいですか。

(挙手多数)

○会長 ありがとうございます。そうしますと、まあ全員とはいきませんが、ほとんどの方が今日採決した方がいいという意思表示が見られましたので、時間もないですので、ここで今日は採決をしたいと思います。

今日の出席委員は全部で24名です。この採決には私議長も加わります。議案第2号につきましては、出席24名中3分の2以上の16名で決定となります。

それでは採決をしたいと思います。議案第2号統合校の位置につきまして、中和小学校、萬歳小学校、古城小学校の統合校の位置を古城小学校にすることとして、答申することに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成23名 反対1名)

○会長 それでは3分の2以上の賛成となりましたので、議案第2号につきましては賛成として答申することに決定をいたしました。

なお、答申書の作成につきましては私にご一任に願いたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○会長 ご異議ないと判断させていただき、答申につきましては私の方で取りまとめの上、教育委員会の方に答申させていただくことといたします。

(2) 議案第3号 統合校の開校時期について(諮問)

○会長 それは続いて、議案第3号の統合校の開校時期につきまして、今事務局の方で資料を配るということですので、よろしくお願いいたします。

(資料配付)

○会長 それでは事務局の方説明をお願いします。

○事務局 (資料説明)

○会長 ありがとうございました。細かな質問等はまた次回にしたいと思います。

特に何もなければこれで本日予定されている議事につきましては全て終了としました。議事進行につきましてご協力ありがとうございました。進行につきましては、事務局の方にお返しをしたいと思います。

5 その他

○事務局 それでは最後に次第の5、その他ということで、事務局より何点か事務連絡をさせていただきます。

○事務局 (事務連絡)

○事務局 ただいまの説明に関しまして何か質問等があればお願いします。

○委員 日程なんですけど、4月30日月末だし、GW中なんで、もう決まっていればしょうがないですけど、今後決める時はその辺少し考慮して決めていただいた方がいいかなと思いました。

○事務局 ご意見のほうありがとうございます。また皆様のご都合を聞きながら調整したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

6 閉会

○事務局 それでは長時間の会議となりまして大変お疲れ様でした。以上で閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。

【閉会：午後8時16分】